

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ホッコクアカエビ

学名 *Pandalus eous*

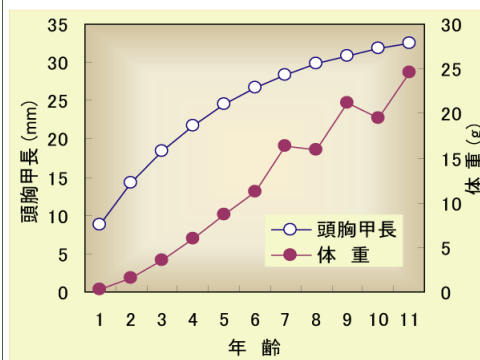
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 11年
成熟開始年齢: 雄性先熟の雌雄同体で、雌としての成熟は6歳
産卵期・産卵場: 2～4月で隔年産卵、成長に伴い400～600mの深みへ移動した後、性転換と交尾・産卵を行う、産卵を終えた抱卵個体は次第に浅い方へ移動し、主に水深200～300mで幼生の孵出を行う
索餌期・索餌場: 主分布域と同海域
食性: 微小な甲殻類、貝類、多毛類およびデトリタス等
捕食者: マダラ、スケトウダラ等の底魚類

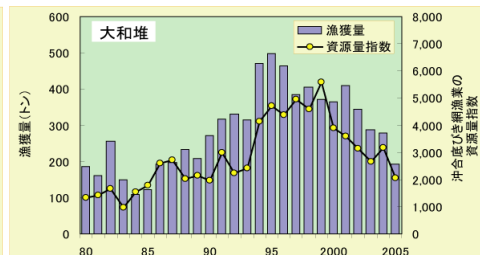
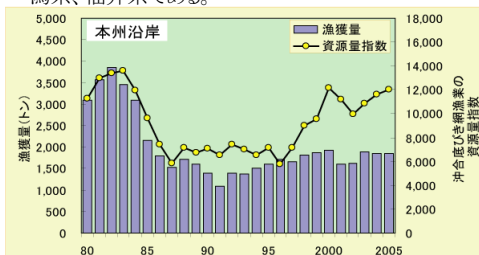


漁業の特徴

鳥取県～北海道沿岸の水深200～950mの深海底に生息し、分布の中心は200～550mにある。沖合底びき網、小型底びき網、かご網によって漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は1982年の4,118トンピークに減少傾向にあったが、1995年以降は2,000～2,200トン台で推移し、2005年も2,050トンでほぼ横ばいで推移している。主要な漁場は能登～若狭湾を中心とする日本海中部海域と、隠岐堆、新隠岐堆を含む山陰沖及び大和堆である。県別では、沿岸に主要な漁場を持つ石川県の漁獲量が最も多く、次いで新潟県、福井県である。

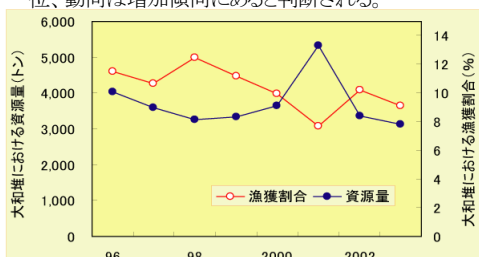
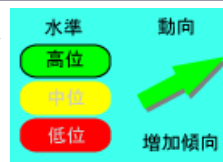


資源評価法

漁獲の50～60%を占める沖合底びき網漁業の漁獲成績報告書による海区別の資源量指数と漁獲量の推移及び漁獲の多い石川県と新潟県の小型底びき網漁業における主漁場でのCPUEの経年変化を基礎とした。また、能登半島以西の本州沿岸については、調査船による採集結果から資源量の指標値およびサイズ組成の経年変化を調べた。

資源状態

有効漁獲努力量が減少傾向にある中、1994年以降の漁獲量は横ばいに推移している。加えて、沖合底びき網の資源量指数は増加傾向にあり、とくに大和堆を除く本州沿岸の資源量指数は、過去最高値の約9割まで回復している。石川県と新潟県の小型底びき網漁業のCPUEも増加傾向が認められる。調査船調査結果から推定される2005年の能登半島以西における本州沿岸の資源量は前年と同程度に維持されており、海域によって傾向は異なるものの卓越年級の出現も見られている。本州沿岸の資源が良好のため出漁が減少している大和堆の資源も良好に維持されていると判断される。したがって、資源水準は高位、動向は増加傾向にあると判断される。



管理方策

本州沿岸海域における資源状態が良好で、大和堆への出漁が減少している。本州沿岸については資源量指数が一貫して増加傾向にある過去4年間の最高漁獲量(本州沿岸C2003＝1,893トン)を、大和堆は1980年以降の最高漁獲量(大和堆C1995＝497トン)をそれぞれ漁獲しても資源は十分維持されると判断し、これらの合計をABClimitとした。ABCtargetは、これらの合計漁獲量に0.9を乗じて算定した。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	2,400トン	本州沿岸C2003 大和堆C1995	－	－
ABCtarget	2,200トン	0.9(本州沿岸 C2003＋大和堆 C1995)	－	－

資源評価のまとめ

- 主要な漁場である本州沿岸において、資源量指数やCPUEが増加しており、資源状態は高位水準、動向は増加傾向にある
- 能登半島以西における本州沿岸の資源の動向は横ばいで、海域によっては卓越年級群も見られ、資源の状態は良好といえる
- 本州沿岸の資源状態が良好で、大和堆への出漁が減少している

管理方策のまとめ

- 現在の漁獲水準が大幅に増加しなければ、資源水準は良好に維持される

資源評価は毎年更新されます。